

中国語の新奇動詞パターン“閃V”

— 語彙概念意味論と構文形態論に基づく比較検討 —

The Chinese Novel Verb Pattern “*Shan V*”

A Comparative Discussion based on Lexical Conceptual Semantics and Construction Morphology

朱 冰[†]
ZHU, Bing

Abstract In the present paper, we explore the meaning of the Chinese novel verb pattern “*shan V*” ‘do something suddenly’ from the perspectives of lexical conceptual semantics and construction morphology. We compare the advantages and limitations of the two approaches to the analysis of the “*shan V*” verbs. The lexical conceptual structure can illustrate the syntactic pattern of each verb but fails to cover the background knowledge of some verbs. As the background knowledge is intimately involved with the emergence of the new verbs, it should also be regarded as part of the verbs’ meaning. On the other hand, the morphological construction schema cannot illustrate the syntactic pattern of the verbs but it describes the verbs’ structure and meaning more precisely. Furthermore, different construction schemas can be organized as a network by different kinds of inheritance links, which illustrates the extension relation between the construction schemas.

1. はじめに

近年、中国語には以下のような動作の速さと突然さを表す“閃(*shǎn*)V”(V=動詞)パターンの新奇動詞の使用が現れている。

(1) “閃V”パターンの新奇動詞

- ① “閃婚(*shǎnhūn*)”(“婚”:結婚する;2人が知り合ってあまり時間が経たないうちに結婚する)
- ② “閃離(*shǎnli*)”(“離”:離婚する;2人が結婚してあまり時間が経たないうちに離婚する)
- ③ “閃恋(*shǎnliàn*)”(“恋”:恋愛する;2人が知り合ってあまり時間が経たないうちに、あるいは初対面ですぐに恋愛関係を始める)

- ④ “閃分(*shǎnfēn*)”(“分”:別れる;2人が付き合っていてあまり時間が経たないうちに別れる)
- ⑤ “閃孕(*shǎnyùn*)”(“孕”:妊娠する;もともと妊娠する予定はなかったが、何らかの理由で急遽妊娠することを決める)

この中に、“閃婚”と“閃離”は、すでに現代中国語の標準辞書《現代汉语词典(第6版)》(『現代中国語辞典』,北京:商務印書館,2012年)に収録されている。

“閃”は名詞“闪电”「稲妻」に由来し、稲妻が素早く現れ、また素早く消えるという性質がメタファー的に拡張され、「速やかに」「突然」という副詞的な意味を獲得したと考えられる。現代中国語には、もともと“閃击(*shǎnjī*)”(兵力を集中して突然攻撃する)という動詞が存在しているが、最近(1)のように“閃V”パターンの新奇動詞が生産的に作られている。これらの動詞の多くは、現代中国人、特に若者の新たなライフスタイルを反

[†] 愛知工業大学 基礎教育センター

映しており、インターネットの普及にともない、流行語としても広がっている。

施媛媛 (2012)、魏沿沿 (2015) は“閃 V”パターン動詞の由来に焦点を当て、名詞“闪电”からのメタファー的な拡張の結果であると分析した。しかし、先行研究では各動詞の意味に対する体系的な分析が足りず、理論的な考察も行われなかった。(1) に挙げた各動詞の意味から見れば、いずれも動作が速いという意味特徴が含まれていることは明らかであるが、それだけで各動詞の意味を網羅しているとは言いがたい。例えば、後述するように、“閃孕”の出現には特定の社会的背景と密接に関わっている。そういった背景知識は、“閃孕”を理解するには必要不可欠な要素なので、動詞の意味の一部であると認めべきだと考えられる。

本稿は、「語彙概念意味論 (Lexical Conceptual Semantics)」と「構文形態論 (Construction Morphology)」の観点から、それぞれ“閃 V”パターン動詞の意味を体系的に分析し、2つの理論的枠組みの有効性と限界を比較検討したい。以下、第2節では語彙概念意味論のアプローチから、第3節では構文形態論のアプローチから、“閃 V”パターン動詞の意味を捉え、それぞれの利点と限界を指摘する。最後に、第4節では本稿の内容をまとめる。

2. 語彙概念意味論のアプローチ

本節では、まず影山 (2008) が提示した「語彙概念構造 (Lexical Conceptual Structure; 以下 LCS と略する)」を紹介する (2・1)。そして、LCS を中国語の“閃 V”パターン動詞の意味分析に応用してみる (2・2)。最後に、その利点と限界を考える (2・3)。

2・1 公式としての語彙概念構造

語彙概念意味論の考え方では、動詞の意味は、「活動ー変化ー結果」という行為連鎖として捉えられる。さらに、それぞれの行為は LCS というテンプレートのような公式で表示できる。具体的な動詞の意味は、複数の具体的な意味内容が入った公式を複合させることによって表せる。例えば、(2) はよく見られる LCS の基本公式で、(3) は動詞「置く」の意味を表す LCS 公式である。

(2) a. 状態

[]y BE AT-[]z

(y が z という場所に [あるいは状態] にある)

b. 活動

(自動詞) []x ACT または

(他動詞) []x ACT ON-[]y

((自動詞) x がある行為や活動をする ; (他動

詞) x が y に対して、ある行為や活動、働きかけをする)

c. 到達

BECOME [[]y BE AT-[]z]

(変化が起こって、y が z の状態/位置になった)

d. 達成

[]x CAUSE [BECOME [[]y BE AT-[]z]

(x が w に働きかけることによって、変化が起こり、最終的に z に y が存在する)

(3) 「社長は金庫を自分の部屋に置いた。」

[[]x ACT ON-[]y] CAUSE [BECOME [[]y BE AT-[]z]]

x = 社長, y = 金庫, z = 自分の部屋

(社長が金庫に働きかけ、その結果、金庫が社長の部屋にある)

(影山 2008 : 250)

LCS は、個別動詞の意味のみならず、動詞類ごとの統語パターンも観察できる。さらに、そのような LCS 公式は、日本語以外の言語にも運用することが可能なので、語の意味を通言語的に比較することができる。従って、LCS は中国語の“閃 V”パターン動詞の分析にも有効なものであると予想される。

2・2 “閃 V”パターン動詞の LCS

第1節で触れたように、中国語にはもともと他動詞“闪击”が存在している。

(4) 1939年9月, 德国 闪击 波兰。(BCC¹)

1939年9月 ドイツ 突然攻撃する ポーランド

「1939年9月にドイツはポーランドに奇襲攻撃を仕掛けた。」

(4) の“闪击”の意味は、LCSで次のように示すことができる。

(5) [[x suddenly→ACT ON-y] CAUSE [BECOME [y BE AT-ATTACKED]]]

x = ドイツ, y = ポーランド

つまり、ドイツは突然ポーランドに働きかけた (攻撃した) 結果、ポーランドは攻撃された状態になった。「突然」という意味については「suddenly→ACT ON-y」という形で、suddenly が動作 (ACT) を修飾していることを示す。

一方、(1) に挙げられた“闪婚”“闪离”“闪恋”“闪分”

¹ BCC 中国語コーパス (北京語言大学)

中国語の新奇動詞パターン"閃V"—語彙概念意味論と構文形態論に基づく比較検討—

は、いずれも相手の存在が想定できる自動詞である。そして、動作主は自分の意志によって、突然、自分のある状態に導いていると分析できる。例えば、“閃婚”のLCSは、次のように示すことができる。

(6) 我想跟她閃婚。(Weibo²)

私 たいと彼女 すぐ結婚する

「(知り合ったばかりだが) 私は彼女といますぐ結婚したい。」

(7) [x CONTROL [suddenly→BECOME [x BE AT-MARRIED TO-y]]]

x = 私, y = 彼女

動作主 x はすぐに自分を相手 y と結婚している状態に導きたい。他の動詞の場合、イタリックの MARRIED TO の部分 (変項) を対応する状態に変えれば、その動詞のLCSとなる。

(7) のLCSと類似して、“閃孕”のLCSは次のように書ける。

(8) [x CONTROL [suddenly→BECOME [x BE AT-PREGNANT]]]

ただし、“閃孕”の出現には特殊な社会的背景がある。それは、2008年のリーマンショックの後、本来は出産をする予定がなかった多くの女性が不況によるリストラを避けるために、急遽妊娠することを決めた、ということである。なぜならば、中国の法律では、妊娠中または育児中の女性社員が解雇された場合、労働仲裁機関に対し、申し立てを行い、会社側に賠償金を請求することができるからである。妊娠すれば、会社に解雇されるリスクが下がり、そしてその後、育児休暇も取得できるので、しばらくは仕事(収入)について心配する必要がなくなるのである。“閃孕”という新奇動詞の出現は、そのような背景に由来したと言われている³。

以上、各動詞の共通点として、動作の突然さと速さが強調されている点が挙げられる。それに対して、以下の各例における“閃充 (shǎnchōng)” “閃付 (shǎnfù)” “閃购 (shǎngòu)” は、「突然性」の意味が薄れ、「動作が速い」という意味特徴のみ残っていると考えられる。

(9) 手机冻的都 不能 閃充 了。

携帯 凍る もう 否定 できる 急速充電する 変化

「(とても寒くて) 携帯もフリーズしてしまつたらしく、もう急速充電できなくなつてしまった。」

(10) 閃付 了 一下, 感觉 跟
快速支払いをする 完了 ちょっと 感じる と
刷 校園卡 差不多。
(カードを) 通す キャンパスカード 変わらない
「ちょっとクイックパスで支払つてみた。キャンパスカードを使っているのとあまり変わらない。」

(11) 閃购 了 半年后 去 南欧 的机票。
手早く買う 完了 半年後 行く 南ヨーロッパの 航空券
「半年先の南ヨーロッパ行きの航空券をすぐに買つちやつた。」

(Weibo)

(9) から (11) の動詞のLCSは次のように示すことができる。

(12) [[x ACT ON-y] CAUSE [y rapidly→BECOME [y BE AT-POWERED/PAID/ORDERED]]]

x = 動作主 (話し手), y = 携帯/代金/航空券

2・3 LCSの利点と限界

2・2に提示したLCSには、それぞれの動詞が実際に使われる際の統語パターン、及び行為連鎖が示されている。また、似ている意味の動詞は、同じLCSのテンプレートにそれぞれ具体的な意味内容(変項)を入れれば、その動詞のLCSとなる。つまり、似ている意味の動詞を統一的に捉えることができる。

しかし、“閃V”パターン動詞に対する分析において、LCSにはいくつかの限界が考えられる。まず、動詞の意味及び統語論的特徴はLCSで示すことができるが、その動詞の形態論的特徴、つまり「副詞“閃”+動詞(一文字)」という構成パターンはLCSから確認できない。また、似ている意味の動詞は、同じLCSのテンプレートに統合できるが、すべての“閃V”パターンの動詞を統一的に捉えることは、やはり難しい。例えば、2・2に挙げた動詞のLCSを2つのグループ(7)(8)と(5)(12)に分け、(13)と(14)のようにそれぞれ1つのLCSに統合することも可能かもしれないが、(14)のように突然さと速さの意味が動詞間で必ずしも一致しているとは言えないため、統一には、やや無理が感じられる。

(13) [x CONTROL [suddenly→BECOME [x BE AT-z]]]

(14) [[x ACT ON-y] CAUSE [y suddenly/rapidly → BECOME [y BE AT-z]]]

さらに、“閃婚” “閃离” が反映する社会現象や“閃孕”に含まれる特殊な社会的背景といった知識は、このパターンの新奇動詞の出現に密接に関連する。これらの動詞の意味を理解するためには、そういった背景知識も必要不可欠なので、動詞の意味の一部分であると認めるべき

² Weibo (微博) は中国語版のツイッターである。

³ 百度百科より (<http://baike.baidu.com/item/%E9%97%AA%E5%AD%95/2086943?fr=aladdin>)。

ではないかと考えられる。ところが、LCSにはそのような意味特徴を反映できない。

3. 構文形態論のアプローチ

Goldberg (1995) と Croft (2001) を中心に発展してきた「構文文法 (Construction Grammar)」の理論枠組みでは、言語表現はいずれも「形式 (form)」と「意味 (meaning)」のペアである「構文 (construction)」であると考えられる。語、句から単文、複文まで、いずれも構文と見なせる。人間の言語知識は、構文からなる階層性のある構文ネットワークである。さらに、Booij (2010) は、構文文法の枠組みにおいて、語の構成と意味を分析するための「構文形態論」を提唱した。以下、まず“閃V”パターン動詞の構成と意味を「構文形態論」の枠組みで分析し、その有効性を検証する。次に、LCS と対照して、「構文形態論」の利点と限界を考える。

3・1 “閃V”パターン動詞の構文ネットワーク

LCS と類似して、構文文法においても似ている構造と意味の言語表現から公式のような構文スキーマを抽出する。LCS と異なり、1つの構文は必ず形式と意味のペアである。形式的側面には、音韻論、形態論、統語論的な特徴が含まれ、意味的側面には、意味論、語用論、談話機能などの特徴が含まれる (Croft 2001)。似ている特徴を持つ構文の間には拡張関係が存在すると考えられ、それらのスキーマは構文ネットワークを構成する。

まず、形態と意味上の特徴だけを考えると、“閃击”“閃婚”“閃离”“閃恋”“閃分”“閃孕”などから抽出する構文スキーマは、Booij (2010) による構文の表示法に従えば、次のように示すことができる。

$$(15) [sh\ddot{a}n_i [CV]_{v-j}]v_k \leftrightarrow [[suddenly]_i v_j]_k$$

左側は動詞の形式で、右側は動詞の意味である。両者は形式と意味のリンクを表す双方向の矢印で結ばれる。 $[CV]v$ は単音節、つまり一文字の動詞であることを表す。形式側のもっとも外側にある v はこの構文全体が動詞であることを示す。

さらに、各動詞の使用と由来に関わる語用論的または社会言語学的な背景も含めて考えると、右側に関連する要素を加えることができる。例えば、“閃婚”“閃离”“閃恋”“閃分”については (16)、“閃孕”については (17) のように示せる。

$$(16) [sh\ddot{a}n_i [CV]_{v-j}]v_k \leftrightarrow [[suddenly]_i v_j \text{ without deep consideration}]_k$$

$$(17) [sh\ddot{a}n_i [CV]_{v-j}]v_k \leftrightarrow [\text{be compelled } [suddenly]_i v_j]_k$$

それに対して、“閃充”“閃付”“閃购”は次のような構文スキーマをなしている。

$$(18) [sh\ddot{a}n_i [CV]_{v-j}]v_k \leftrightarrow [[rapidly]_i v_j]_k$$

以上の構文スキーマは、図1のようなネットワークを構成すると考えられる。(15) はもっとも抽象的なプロトタイプスキーマで、最上位に位置付けられる。(15) と (16) (17) (18) は、それぞれ継承リンク (inheritance link) で結びついている。Goldberg (1995) による継承リンクの分類に従えば、(16) (17) はいずれも具体的な背景を持つスキーマなので、(15) とは具体例のリンク (instance link) で関連付けられている。(18) は突然性の意味を失い、動作の速さという意味しか残っていないため、(15) とはメトニミー的な関係をなしていると考えられ、両者は下位関係のリンク (subpart link) によって結ばれている。このネットワークはさらに拡張することが可能なので、新しい動詞が作られた際には、新しいスキーマとリンクを付け加えることができる。

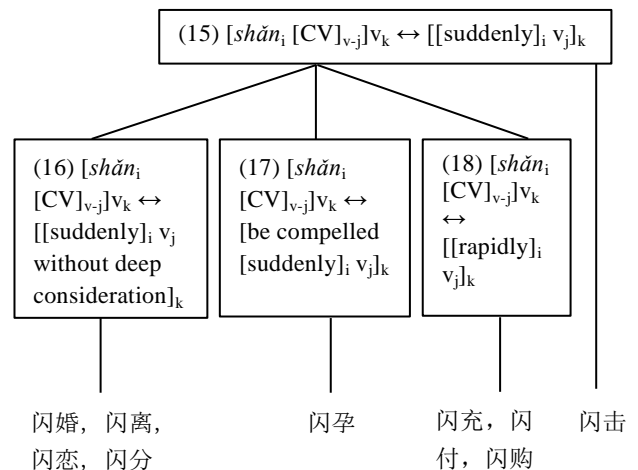


図1：“閃V”パターン動詞の構文ネットワーク

3・2 構文形態論の利点と限界

構文形態論の利点として、LCS と比べた場合、1つ1つの動詞の形態と意味の特徴をより詳細に記述することができる。さらに、異なる構文スキーマの関係性は、継承リンクと構文ネットワークを通して描くことができる。つまり、より上位にあるスキーマはより抽象的なもので、より下位にあるスキーマはより具体的なものである。上位スキーマと下位スキーマは継承リンクで結ばれ、構文ネットワークが成立する。新しい動詞が作られた際、構文ネットワーク上にすでに存在している動詞を表すスキーマと照らし合わせたり、または既存のスキーマから拡張されたものであるとし、新しいリンクを付け加えたり

中国語の新奇動詞パターン"閃V"―語彙概念意味論と構文形態論に基づく比較検討―

することができる。

一方、構文形態論は主に形態上の特徴に注目するので、LCSに含まれる語の統語上の特徴が、構文スキーマにはそれほど反映されていない。統語上の特徴を考察する場合、より大きい単位の構文、つまり文レベルの構文を考えなければならない。形態論レベルでは、それをカバーするのは、難しいと考えられる。

4. おわりに

本稿は、語彙概念意味論と構文形態論という2つアプローチから、中国語の“閃V”パターンの新奇動詞の構造・意味を分析した。語彙概念意味論は、動詞に関わる行為連鎖に注目し、動詞の意味と統語パターンをLCSで統合的に示すことができる。しかし、LCSでは動詞の意味を十分に捉えられない場合もある。さらに、異なる意味特徴を持つ動詞の関係についてもうまく説明ができない。それに対し、構文形態論は、動詞の形態レベルの特徴に注目するため、統語パターンを十分に描けないが、動詞の形態・意味上の特徴をより精緻的に記述でき、異なるタイプの動詞の間に存在する拡張関係も、構文ネッ

トワークを通して示すことができる。2つのアプローチは、いずれも利点と限界が存在するが、構文形態論は、“閃V”パターンの動詞の形式と意味を体系的に記述するには、有効ではないかと考えられる。

参考文献

- 施媛媛：“閃婚”引領“閃”族詞，咬文嚼字，9，50-51，2012.
- 魏沿沿：从認知角度看“閃X”族新詞語，現代語文（學術綜合版），10，140-142，2015.
- 影山太郎：語彙概念構造（LCS）入門，レキシコンフォーラム No.4，239-264，ひつじ書房，東京，2008.
- A. E. Goldberg: *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*, University of Chicago Press, Chicago, 1995.
- W. Croft: *Radical Construction Grammar: Syntactic Theory in Typological Perspective*, Oxford University Press, Oxford, 2001.
- G. Booij: *Construction morphology*, Oxford University Press, Oxford, 2010.

(受理 平成 29 年 3 月 10 日)